

飯田市農業振興ビジョン（案）【概要版】

農業・農村に係る課題を解決し、活力ある農業・農村の構築による地域活性化を図るための指針として策定します。
 計画期間 平成30年度（2018）～2028年度

平成30年3月22日
 飯田市議会全員協議会 資料No.10-1

現状分析

農家数と農家人口の著しい減少
 過去10年間（H17～H27）の比較
 総農家数 ▲15.8%
 農業従事者数 ▲37.7%

経営規模等の特徴

- ・農業人口率が高く、従事する市民が多い
- ・小規模農家の割合が高い

農畜産物の特徴

- ・標高差や気候条件の良さを活かし、少量多品種の農産物栽培
- ・果樹、野菜、畜産、きのこの栽培が盛ん
- ・複合経営が特徴的

リニア時代の到来・時代背景への対応

- ・田園回帰、田舎志向の高まり
- ・農山村文化、農畜産物、食を活かし都市農村交流を促進

基本構想（11年間）目指す農業・地域の姿

地域経済を支える農業

農業を活かした地域づくり

キャッチフレーズ ～誰もが考え実践できる、特色ある地域農業の実現～

<p>●多様な担い手により持続する農業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定農業者や農業法人などの意欲ある農業者が、安定して収益性の高い農業経営を行っている。 ・幅広い年代で、地域住民やIターン者が、農業を継いだり新たに就農したりして定着している。 ・兼業農家や、趣味や生きがいとして農業に取り組む市民も多く、大勢の市民が農業に関わって活躍している。 	<p>●多種多品目の農畜産物を生産する産地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高品質で安全・安心な農畜産物が生産され、日本中の消費者に喜ばれている。 ・この地域でつくられた農畜産物が産地ブランドとして高い評価を受けている。それを求めて多くの人が訪れ、海外に輸出される農畜産物も増えている。 ・他業種・他産業と連携して、付加価値の高い農畜産物がつくれ、新しい特産品となっている。 	
<p>●生産基盤の維持により保全される多面的機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農地、水路、農道などが適切に管理され、農業生産に役立っている。 ・地域住民の取組で、農地が保全・活用され、水路・農道などの機能が維持されている。 ・防災、景観育成、生物多様性の保持など農業の多面的機能が発揮されている。 	<p>●16地区の個性が輝く地域農業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの市民が農業を身近なものと感じ、農ある暮らしを楽しんでいる。 ・農業や農村文化をベースとした都市農村交流が各地区で行われている。 ・各地区で、魅力を高めて人を呼び込む取組（田舎に還ろう戦略）が展開されている。 	<p>●多様な主体が協働して推進する農業振興</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業振興センター及び地区農業振興会議（農業者、生産団体、行政）が課題や目指す姿を共有し、それぞれに役割をもって連携・協力して課題の解決に向けた取組を進めている。

基本的方向（3～4年間）

※基準値（2016）→目標値（2020）

<p>1 後継者・新規就農者の確保と育成★重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○関係団体・法人等と協働して、新規就農者を誘致します。 ○お試し住宅の活用による人材の誘導に取り組みます。 ○農地、住宅の確保や地域への定着を支援します。 ○農業経営に必要な知識・技能を習得する講座を開催します。 <p>新規就農者（自営）1組→10組（3年間の累計）※</p>	<p>2 地域農業の中心となる担い手の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○認定農業者、農業法人など意欲ある農業者が、農家の目標となるモデル的な経営者となるよう支援します。 ○ワーキングホリデー等による労働力の確保、機械・施設整備による省力化・効率化を支援します。 <p>認定農業者212人→240人※</p>	<p>3 多様な担い手の確保と育成★重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○兼業農家、定年帰農者など、さまざまな農業者がレベルアップに取り組む活動を支援します。 ○農業への関心に応えるため、講座を開催し、学習活動への支援を行います。 <p>販売農家・自給的農家の合計 3,831戸→3,600戸※</p>	<p>4 消費者に信頼される農畜産物の生産</p> <ul style="list-style-type: none"> ○安心・安全で品質の高い農畜産物の生産性向上に向け、推奨品目の導入、生産施設整備等を支援します。 ○省力化、生産性向上のため、IoT等の新技術の活用を研究します。 <p>農産物販売額（飯伊）192億94百万円→200億円※</p>
<p>5 ブランド力の強化と新たなマーケットへの展開★重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ブランド推進体制と情報発信力を強化し、産地に人を呼び込む販売戦略や海外展開等のマーケティング活動に取り組みます。 ○次なるブランド化の推進と、産地意識の醸成、生産・消費の拡大に取り組みます。 <p>市田柿販売額49億32百万円→51億15百万円※</p>	<p>6 他産業と連携した高付加価値化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○6次産業化等、高付加価値を生み出す取組の事業化に向け、相談、情報の収集・提供などを行い、支援します。 ○果実酒特区を活用したシードル等の製造、販売に向け、相談業務、学習会の開催その他の支援を行います。 <p>6次産業化 計画認定数 3件→4件（累計）※</p>	<p>7 域産域消による地域経済の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地場産業を担う農工商業者が連携した域産域消活動を推進します。 ○地域内の有機資源を活用した農業生産や、環境保全型農業の取組を支援します。 <p>域産域消食育店19店舗→25店舗※</p>	<p>8 持続的な営農を支える生産基盤の整備と保全</p> <ul style="list-style-type: none"> ○優良農地の保全、用水路や農道の維持管理・整備を推進します。 ○耕作条件の改善に向けた基盤整備を支援します。 <p>農振農用地区域 2,565.3ヘクタール→2,540ヘクタール※</p>
<p>9 荒廃農地の発生防止と農地の有効利用★重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○担い手への集積等、農地の流動化に取り組みます。 ○農地バンクの運用により、農地の情報を収集・発信します。 ○市民農園、レクリエーション農園の開設と運営を支援します。 ○野生鳥獣、自然災害の影響を最大限抑制する取組を進めます。 <p>貸し付けられた農地 826ヘクタール→854ヘクタール※</p>	<p>10 地域ぐるみで行う多面的機能の維持・増進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○多面的機能支払や中山間地域農業直接支払等による、地域が主体となった農地の保全・活用の取組を支援します。 <p>多面的、中山間の対象農地 575.4ヘクタール→585ヘクタール</p>	<p>11 地域資源を活かした交流の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域資源を活かしたグリーンツーリズム等の都市農村交流に取り組めます。 ○二地域居住や定住につながるよう、農をベースにした魅力ある地域づくりを推進します。 <p>農業宿泊体験受入農家 146戸→150戸※</p>	<p>12 協働による推進体制の再構築と機能の強化★重点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○農業振興センターは、農業者と農業に係る組織が総合力を発揮し、協働して取り組む体制を再構築します。 ○地区農業振興会議の活性化に向け、農業振興センター事務局、農業振興委員、地域自治組織等が連携して、地区での議論や取組を牽引していきます。

具体的取組（1年間）

- 農業振興センターは、農業者、関係団体、地区の思いを受けとめ、毎年度の取組を企画・立案し、実践します。
- 共通課題を農業振興センターが調査・研究し、関係者と連携して解決方法を企画・立案していきます。
- 進行管理により毎年度の取組を評価・改善し、効果をより高めていきます。
- 農業者や地区の思いを受け、一緒に考えて取り組む「伴走型支援」を進めます。